

沼津工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	学外実習Ⅲ	
科目基礎情報							
科目番号	2023-019		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	機械工学科		対象学年	5			
開設期	集中		週時間数				
教科書/教材							
担当教員	三谷 祐一朗						
到達目標							
1. 実習をとおして学問の実際の意義を説明できる。 2. 技術者としての労働観・職業観を説明できる。 3. 実習の目的、実習の成果などを事前レポート・実施報告書・報告会をとおして説明できる。							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
実習をとおして学問の実際の意義を説明できる。	☐ 実習をとおして学問の実践的意義を具体的に説明できる。		☐ 実習をとおして学問の実践的意義を説明できる。		☐ 実習をとおして学問の実践的意義を説明できない。		
技術者としての労働観・職業観を説明できる。	☐ 技術者としての労働観・職業観を具体的に説明できる。		☐ 技術者としての労働観・職業観を説明できる。		☐ 技術者としての労働観・職業観を説明できない。		
実習の目的、実習の成果などを事前レポート・実施報告書・報告会をとおして説明できる。	☐ 実習の目的、実習の意義を、事前レポート、実施報告書・報告会をとおして具体的にかつ明確に説明できる。		☐ 実習の目的、実習の意義を、事前レポート、実施報告書・報告会をとおして説明できる。		☐ 実習の目的、実習の意義を説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
【本校学習・教育目標（本科のみ）】 5							
教育方法等							
概要	長期休業中に、企業または研究機関等の受入先機関において実習を行い、生産現場や研究機関等における研究・開発・生産などの活動を体験し、授業で修得した知識や技術がどのように利用・実用化されているかなどを理解する。また、実務経験を通じて技術者としての労働観・職業観を育成する。						
授業の進め方・方法	受入先機関における実習実施期間は1週間（30時間）程度とする。						
注意点	評価については、評価割合に従って行います。ただし、適宜再試や追加課題を課し、加点することがあります。中間試験を授業時間内に実施することがあります。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	ガイダンス(1)	教育目標・授業概要・評価方法等の説明			
		2週	ガイダンス(2)	受入先機関選定の方法			
		3週	事前研修(1)	応募書類の作成方法			
		4週	事前研修(2)	事前レポートの作成			
		5週	事前研修(3)	合同事前研修			
		6週	受入先機関での研修(1)	内容は受入先機関との協議により決定			
		7週	受入先機関での研修(2)	内容は受入先機関との協議により決定			
		8週	受入先機関での研修(3)	内容は受入先機関との協議により決定			
	2ndQ	9週	受入先機関での研修(4)	内容は受入先機関との協議により決定			
		10週	受入先機関での研修(5)	内容は受入先機関との協議により決定			
		11週	事後研修(1)	実施報告書作成			
		12週	事後研修(2)	実施報告書作成			
		13週	事後研修(3)	プレゼンテーションの手法			
		14週	事後研修(4)	プレゼンテーション資料作成			
		15週	事後研修(5)	報告会			
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					

		15週		
		16週		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標				
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル 授業週
評価割合				
	履歴書・エントリーシート	事前レポート	開始・終了報告	報告書 報告会 合計
総合評価割合	10	25	10	25 30 100
評価割合	10	25	10	25 30 100